**第41巻1号特集　「スマート林業の現場実装の加速に向けた課題」への投稿募集**

森林利用学会誌編集委員会

レーザ計測による森林資源情報の把握，GNSSデータを活用した作業支援，いわゆるスマートハーベスタの生産管理など，林業のスマート化は着実に進みつつあります。森林利用学会においても，技術開発，実用化，現場普及とそれぞれの段階において生じる課題に注目し，学会誌第36巻1号で「林業のスマート化の加速に向けた挑戦」，第40巻1号で「林業における新技術とデジタルデータの活用」という特集を組み，これらの課題と向き合ってきました。さらに2025年3月のシンポジウムでは，「スマート林業の現場実装の加速に向けた課題」と題して行政と研究がそれぞれスマート林業の普及に向けて進むべき方向性を示すとともに，北海道における先進的実例を共有してその歩みや実装のなかで見えてきた課題について議論が行われました。

これらを踏まえ，スマート林業と総称される新しい技術や取り組みが現場に浸透し，活用されるための課題は何か，また現場から求められるものにスマート林業の各種技術をどう落としこんでいくか，実学である森林利用学において研究サイドから貢献できることをさらに誌面にて深く論じるべく，来年の第41巻1号においてシンポジウムと同じ「スマート林業の現場実装の加速に向けた課題」を特集することといたしました。

特集では，LiDAR，TLSなどの技術を活用して取得した森林資源や地形に関するデータの活用法，データを作業に利用するために必要な事項や逆にデータを活用した作業の手法， RTKやCLASなどGNSSによる精密な位置情報を用いた機械の操作や作業支援システム，スマートハーベスタから得られるデータを川中や川下が活用するための社会的仕組みの構築やデータの標準仕様などのシンポジウムの内容に沿った原稿にとどまらず，AIを活用したデジタルデータの分析，さまざまな情報を活用した林業機械の遠隔操作や自動化技術の研究，作業支援デバイスの開発，またこれらの情報がスムーズに流通するための情報インフラの整備など，ICTとスマート林業に係る原稿について広く募集いたします。新技術の普及によるスマート林業の定着，労働生産性の改善，労働力不足の解消などの諸課題の解決につながることを期待しております。

本特集にお寄せいただいた原稿は，審査を行い，2026年1月末発行の森林利用学会誌第41巻1号への掲載を予定しております。そのため，論文（研究，技術）については**2025年8月29日（金）まで**，その他の種別（総説，速報，研究・技術資料，抄録，雑録）については，**2025年9月30日（火）まで**原稿を募集いたします。会員の皆様からの多数のご投稿をお待ちしております。